

第3節 高齢者と子育て

1 高齢者の孫との同居の状況

65歳以上の者のいる世帯のうち、三世帯世帯（子どもと孫の両方と同居している世帯）は、昭和55（1980）年以降、ほぼ一貫して割合が低下し続け、平成15（2003）年現在で417万世帯24.1%となっている（図1-3-1）。

2 子育てをする高齢者

(1) ふだんの子育てを行う高齢者

実際にどれくらい祖父母が子育てを行っているのかについてみると、子ども（1歳6か月）が育児をふだん受けているのは、「母」が95.4%と最も高く、「父」が49.4%でこれに続くが、「祖母」は26.1%、「祖父」は10.6%となっており（複数回答）子どもの4人に1人が祖母から、

10人に1人が祖父から育児を受けている（図1-3-2）。

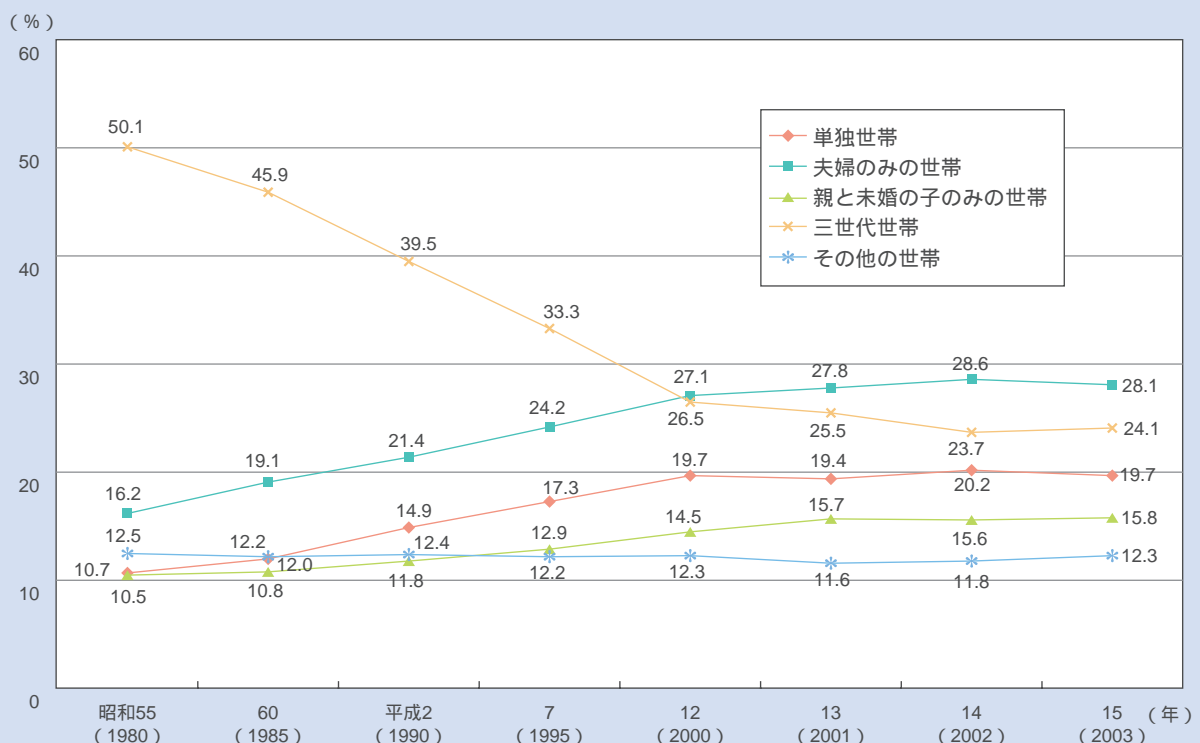
(2) 子どもの急な病気の場合の対応

女性労働者に尋ねた子どもの急な病気の場合の対応は、「親・兄弟姉妹などの親族にみてもらう」が77.1%であり、「自分が会社を休む」49.2%や「配偶者と分担して休む」43.3%よりも多くなっている。なお、「ベビーシッター、家政婦（夫）にみてもらう」や「認可外保育施設に預ける」等はそれぞれ最大でも1%台と低くなっている（図1-3-3）。

(3) 生きがいを感じている高齢者

また、高齢者のうち「生きがい（喜びや楽し

図1-3-1 世帯構造別にみた65歳以上の者のいる世帯の構成割合の推移



資料：昭和60年以前は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降は厚生労働省「国民生活基礎調査」
 (注) 平成7年の数値は、兵庫県を除いたものである。

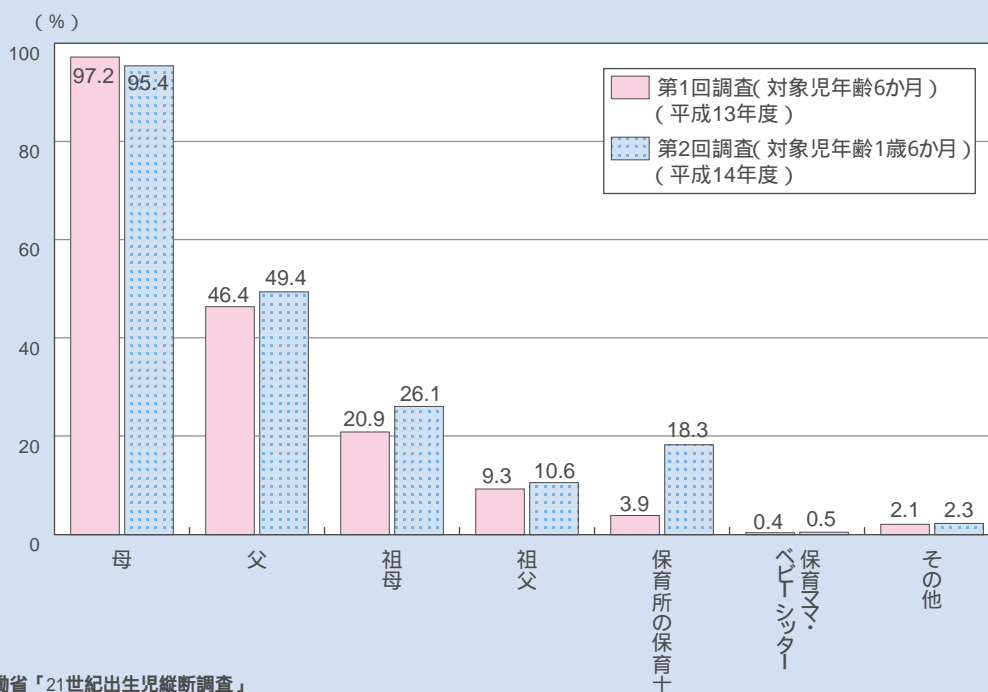
み)を感じている」と答えたものの割合は、小さな子どもの世話をしている高齢者にとっては91.3%であり、小さな子どもの世話をしていない人も含めた全高齢者の81.7%に比べても高い

ものとなっている(図1-3-4)。

3 子育ての相談相手となる祖父母

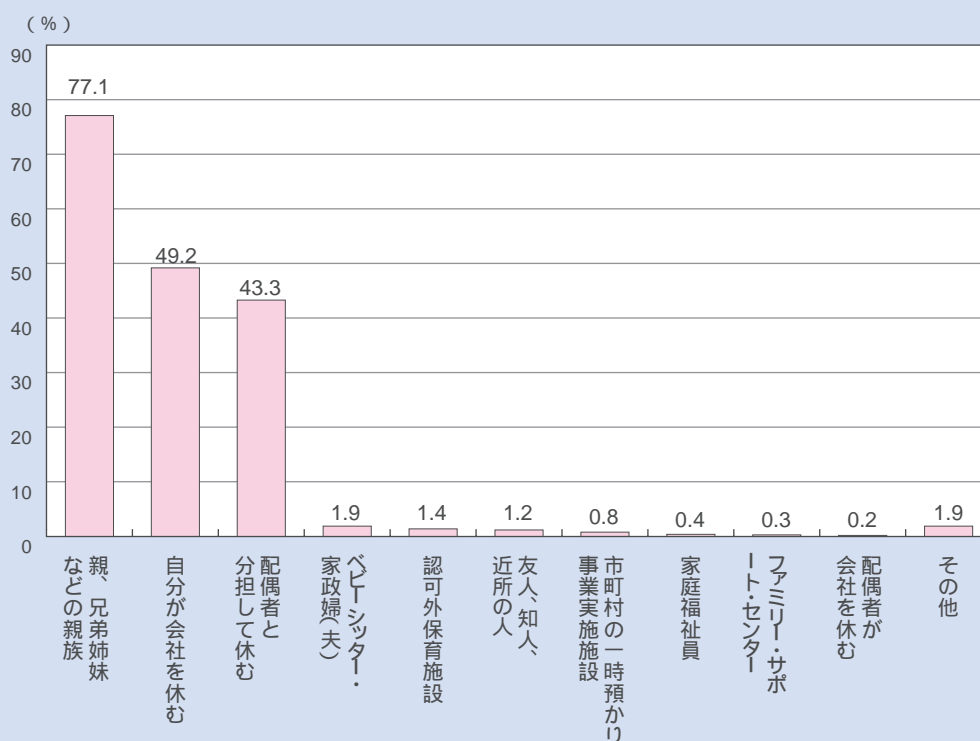
子育てについて、高齢者がどのような役割を

図1-3-2 ふだんの保育者(複数回答)



資料：厚生労働省「21世紀出生児縦断調査」

図1-3-3 子どもが急な病気の場合の対応(末子が小学校入学前の場合)(複数回答)



資料：労働省「育児・介護を行う労働者の生活と就業の実態に関する調査」(平成12年)

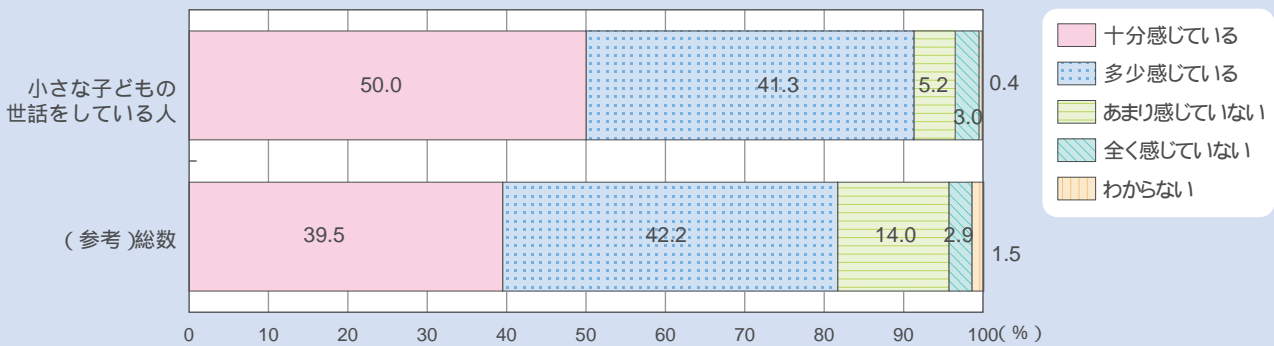
4 高齢者による子育て支援への取組

果たしているかについてみると、子育て（2歳6か月の子ども）についての相談相手として、「自分の親」と答えた人の割合が69.1%と、「配偶者」82.1%、「友人・知人」72.0%に次いで高くなっている。また、「配偶者の親」と答えた割合も24.1%と高くなっており、相談相手として祖父母は子育てに大きな役割を果たしている（図1-3-5）。

現在、市町村やNPOなど多様な主体により、地域の中で、高齢者が積極的に子育てを支援する取組が広がりを見せている。

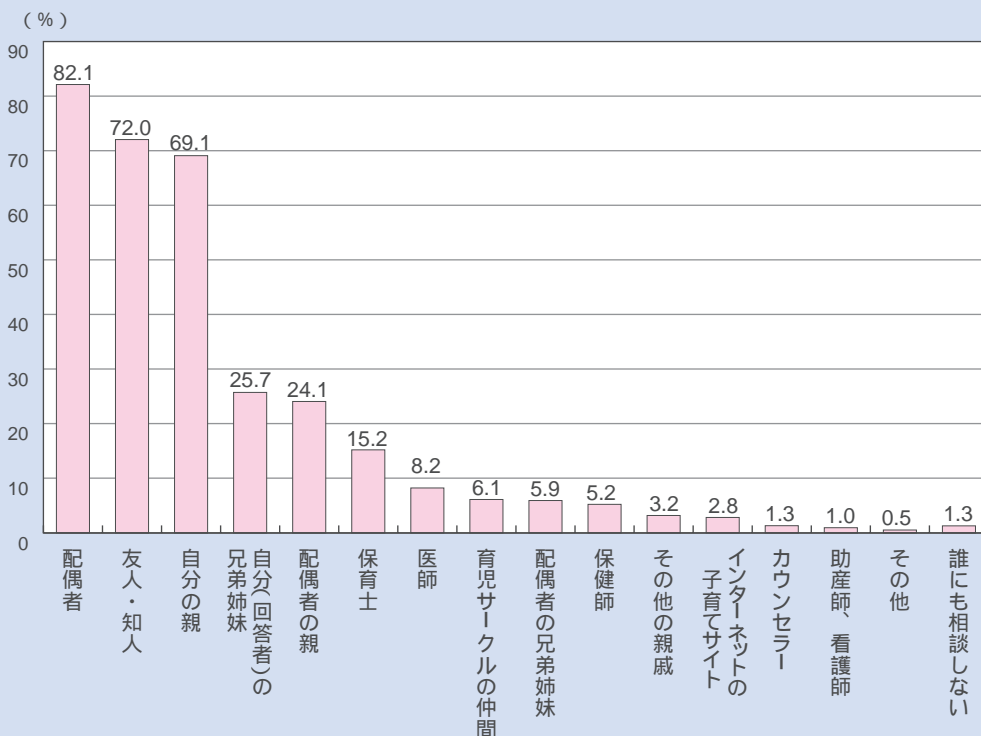
また、シルバー人材センターでは、会員による乳幼児の世話や保育施設への送迎などの育児支援等を行う子育て支援事業を実施している。

図1-3-4 小さな子どもの世話をしている人のうち、生きがい（喜びや楽しみ）を感じている人の割合



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成15年)

図1-3-5 子育て（2歳6か月の子ども）についての相談相手（複数回答）



資料：厚生労働省「21世紀出生児縦断調査」

コラム 02



高齢者による子育て支援への取組

ア ミッキークラブ

埼玉県富士見市の子育てサロン「ミッキークラブ」は、子育てをしている母親たちの支援を地域社会の重要な課題ととらえ、月4回集会施設を借り、中高年ボランティアが中心となって、親子が集える場を提供する等の子育て支援を行っている。



常時10人ほどのボランティアで、赤ちゃんをあやしたり子どもと遊ぶのが上手な人、母親のためにお茶を準備する人、手作りのおやつや漬物を差し入れる人等、それぞれの得意分野で支援をしている。そんな人々のおかげで、母親たちは時を忘れ、井戸端会議に夢中になる時間を持っている。

高齢者ボランティアの中では、活動に参加することにより母子の役に立つということに、生きがいを感じるなどの効果が生まれている。

イ 子育て・お助け隊

山梨県甲府市では、市が高齢者・育児経験者の知恵や経験をいかし、若い母親の子育てをサポートする「子育て・お助け隊」を発足させた。

「子育て・お助け隊」は、市内の子育てサークル等に無料でボランティアスタッフを派遣し、子どもに本を読み聞かせたり、サークル活動時の一時預かりなどの支援を通じて、子育てについての負担の軽減や不安の解消に努めている。

また、高齢者が支援することで、子供や若い母親との世代間の交流が進み、高齢者の生きがいづくりにもつながっている。



ウ ビーのびーの

NPO法人「ビーのびーの」は横浜市で「おやこの広場」を開設しており、NPO法人「ナルク」が高齢者ボランティアの派遣などでこれを支援している。

この広場でボランティアたちは、ピアノを弾いて子どもと遊んだり、得意の木工で木のおもちゃを作ったりと、一人一人の趣味や特技をいかした活動をしている。ボランティアをしている女性は、「退職後は、子育て支援の活動がしたかったので、今はこんなにたくさん子どもに囲まれて、楽しくてたまらない。」と語る。

今、子育てを経験してきたシニアたちが、「おやこの広場」という新しい形での子育て支援の現場でいきいきと活躍している。

今、子育てを経験してきたシニアたちが、「おやこの広場」という新しい形での子育て支援の現場でいきいきと活躍している。